

## 生き物の生態をとらえる映像技術

私達は多くの生き物に囲まれて生活していますが、私達が普段目にしていない生き物やその姿はそれらのほんの一部です。警戒心が強かったり、夜行性であるためなかなか人目につかない生き物。また、遠くて(小さすぎて)見えないもの、動きが速くて(遅くて)目にとらえることができないもの等、肉眼では見ることができないものや、認識して見ていないものがほとんどです。

これらの普段見ることのできない生き物の姿をとらえるときに、ビデオカメラ等の撮影機器は大きな力を発揮します。緑生研究所では、様々な生き物の撮影に積極的に取り組んでいます。タヌキ等の中型哺乳類を対象とした夜間の撮影、鳥類の営巣状況や、セミの羽化等の昆虫の生態映像の撮影のほか、撮影した映像を編集し、図鑑やプレゼン用の映像の製作も行っています。

### CCDカメラで鳥の巣を撮影



鳥の巣にCCDカメラを取り付け、離れた場所から望遠レンズを組み合わせて繁殖状況や餌生物の種類を調べます。鳥の巣は、高さ20m以上の樹上にある事も多く、カメラの設置にはツリークライミングの技術も要求されます。また、繁殖季は鳥にとって特にデリケートな時期なので専門スタッフが細心の注意を払って撮影します。

### 赤外線カメラで夜行性動物を撮影



暗い場所でも撮影できる赤外線カメラや、動物がカメラの前を通った時に自動的に録画を始めるセンサー等を組み合わせて、普段は見ることのできない夜行性動物の生態を撮影します。カメラを設置する場所は主にけもの道や巣穴です。足跡・糞等の痕跡を探しながら撮影に最適な場所を選びます。

フィールドで撮影する場合、機材の電源確保が撮影作業の要となります。そのために、数十kgもあるバッテリーを担いで山を登ったり、電源ケーブルを数百メートル引っ張ることもあります。野生動物の撮影は体力勝負でもあるのです。

昆虫の生態映像の撮影と編集



数時間かけてゆっくりと進む昆虫達の変態も、長時間録画と早回し編集で、変身の過程をじっくり観察することができます。また、動きが速すぎて肉眼でとらえることができないものは、ハイスピードカメラを用いることで鮮明に見ることができます。専門スタッフが昆虫の発生時期や生息環境に合わせて最適な時期と場所で撮影に臨みます。

映像図鑑やCSRビデオの制作



撮影した映像に、テロップやナレーションを加えて編集し、DVD図鑑やプレゼン用の映像を制作します。それぞれの生き物の専門家が企画からお手伝いいたします。ピオトープの記録やオリジナル教材の製作に是非お役立てください。

臆病で神経質な生き物の撮影には大変気を使います。撮影機材を生き物から見えないように隠したり、機材をカモフラージュすることもあります。撮影者も生き物に警戒されないように、移動から撮影時の待機場所まで細心の注意を払います。しかし、様々な工夫を凝らしても、撮影する前に逃げられたりして失敗し、初めからやり直しになることも多々あります。一番大切なのは、諦めない強い心かもしれません。

◆【お問合せ先】◆

株式会社 緑生研究所

〒182-0026 東京都調布市小島町2-40-10 桐生ビル2F

TEL : 042-499-7211, FAX : 042-487-4334, E-mail [rs@ryokusei-ri.co.jp](mailto:rs@ryokusei-ri.co.jp)

営業担当 麻生